

平成24年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	佐賀市立東与賀中学校		
2 所在地	佐賀市東与賀町大字下古賀 1127-1		
3 校長名	野口 敏雄		
4 学級数 児童生徒数	12学級 292人	5 実施学年 児童生徒数	全校生徒 292人

6 取組のねらい

自分の身の周りにおけるユニバーサルデザインを意識させることにより、多様な個性や違いを理解し、相手を尊重する意識や思いやりの心を育むことができる。高齢化が進む社会において、相手の立場を理解し、行動できる生徒の育成とともに、本校の教育目標である「心豊かに たくましく 生きる生徒の育成」実現に向けて、生徒会活動や地域のボランティア活動に積極的に参加することにより、将来を担う生徒が、個性や違いを理解し、相手を尊重する意識や思いやりの心を育むことを目的として、本取組を行う。

7 取組の実際

(1) 第2学年では、総合的な学習の時間に、学年テーマ「生きる」のもと、各自治体や施設等で取り組まれている福祉の状況を、関連書籍やインターネット等を活用して調べるとともに、地元の事業所等に赴き、インタビューを行うなど、実践的な調査を行った。その際、障害のある人々への取り組みだけでなく、さまざまな施設で、生活様式や生活用品にユニバーサルデザインが取り入れられていることを学習した。このような中、佐賀大学・井手准教授の指導により、ユニバーサルデザイン教育の一環として、実際に、障害のある方々から指導を受けながら、ワークショップを体験した。当事者の説明や操作の実演を見た後で、「障害者用ゲームインターフェイス」を、実際に操作することで、環境を改善すれば、障害があっても自分の力を発揮できることを知り、自分の問題として、ユニバーサルデザインを理解できた。



(2) 第3学年では、社会科の公民的分野の「基本的人権」や「国際社会」の単元で、国内のユニバーサルデザインの実態や先進国のユニバーサルデザインそのものについて学習を行った。また、地理的分野において、ヨーロッパにおけるユニバーサルデザイン先進国の現状について、その国の特徴を捉える学習の一環として学んだ。

(3) 第1学年では、家庭科の授業で、身近な生活用品の中にさまざまなユニバーサルデザインが取り入れられていることを実例をあげながら示し、生活しやすい環境が整えられていることを学習した。

8 取組の成果と課題

成果

- ・授業において、身の周りにあるさまざまな生活用品や施設設備の状況について学習を進めることにより「バリアフリー」ではなく、「ユニバーサルデザイン」の意味や重要性について理解することができた。このことから、年齢や性別に関係なく、生活をより豊かに送るための工夫やアイデアを知り、人権を含めた、人とのかわりについて考え直す良い機会・学習となった。

- ・学校生活の中にユニバーサルデザインを取り入れ、皆が、安全で安心して生活を送ることができる学校環境や教室などの学習環境を整えようとする意識が高まってきた。

課題

- ・ユニバーサルデザインを、より具体的に理解できる学習活動や授業の展開が今後望まれる。意識を定着化し、実践力を育成していくためにも、日々の実践活動の工夫・改善も大切ではあるが、何よりも、継続が重要である。

- ・言葉や文章だけでなく、イラストや写真、ビデオなどの視覚教材を有効に活用する授業の工夫に取り組む必要がある。安心して学べる仲間作りのために、教育相談を充実し、生徒の抱える問題や生徒同士の間人間関係について、よりきめ細かな配慮を持って指導に当たる必要がある。